「どうして自動販売機があるのかな？」(交流学習版)

—教師用ガイドブック—

総活動時間: 11 時間

対象学年: 小6年生(または)中学校

はじめに

・この單元では、自動販売機を単に調べるだけでなく、この調べ学習の経過で子どもたちが社会的な問題に気づき(環境問題、社会の変容、モラルの問題など)、自らの態度変容までもっていけるかがポイントになります。ですから、子どもたちの気づきやモラルに対する押しつけがましい指導は避けるべきです。

・クリーン作戦や調べ活動を通して、ゴミ問題や電力問題などに気づくようにしましょう。また、無理に気づくように持って行くより、気づかなければそれでいいぐらいの気持ちで取り組んで下さい。

・地域の人たちと日頃から連絡を取り合い、子どもたちが学習をするのでその支援をお願いできる関係を築いておくことが必要です。営業に支障にならないように、子どもたちにマナーや活動の仕方を訓練できるよい機会だととらえて指導していくとよいでしょう。

・カリキュラム実施の時間的制約や各班(各自)の資料作成時間の差などを考えると、「発表会」の形式を取ることが難しいときは、交流用掲示板で、全員の資料を共有し、理解を深めることが重要となってくると考えられます。このカリキュラムは交流会を持つ構成なので、交流がこの役割を果たしてくれるからです。

・本単元の目的は、自動販売機を取り巻く環境全体について、各自が調査したこと知り得たことについて自分の意見や考え、主張を持つことを重視するのであって、各班(各自)がまとめたことを全員一律に理解する必要はないので無理に知識理解に走らないよう、効果を短絡的に求めないようにしましょう。

・調べ活動での資料作成は、むしろ、ステップ3や4、5での話し合いの時点で、自分の意見に説得力を持たせるための資料としての活用、またそのためのヒントとなるようなものを期待していきましょう。発表や自分の意見の下支えとしての資料的に考えましょう。これによって自分の意見を考えるプロセスを学ぶ体験をさせていきます。

<交流学習>

・カリキュラムの進行日程を参加校で調整します。少し柔軟な方向性をもっておきましょう。特に、実践が始まってすぐ(環境や機械などの調整で遅れる場合が多々あります。)と、子どもたちの意見

が出だした頃に時間をたくさんとれることと、予定の調整を行う週間をもうけましょう。子どもたちに結果を急がせないためです。

・また校内の研修体制や人的なネットワークに気をくばり運動しながら、協力しながら実践を進めましょう。何をめざして何をしているのか伝えることが大切と考えます。

・不特定多数に発信する場合は特にそうですが、交流校などに情報を発信する場合は、モラルや個人情報取り扱いに十分注意して下さい。最初は、交流校どうして練習をかねてやってみることが必要でしょう。この場合、TV会議などで仲良くなって顔を知っている方がうまく伝わります。E-mailや交流用掲示板のみの場合は、VTRレターや写真の添付などで相手がいることを意識させてください。

ステップ1 みんなでやってみよう！クリーン作戦 -空き缶拾い-

学校周辺などを歩き、空き缶・ビン・ペットボトルなどを収集することで空き缶ポイ捨ての問題意識を持つ。

・このときの教師は、「ゴミが悪いとか捨てる人間はどんな人間なんだ。」と子どもたちに問題意識を模らせることが大切で、決して「缶を捨てちゃいけない。」「君らもしてしてるんとちがう？」等の教師根性は極力抑えるようにしましょう。

・「川や道路に空缶があるのはなぜ（観光客、キャンプ、地域の人、運転手_）だろう？」と自分たちの生活に目を向けるようにしましょう。活動の中で「どうして私たちはこんなことをしなくてはならないのか。」という思い、つまり学校でやらされているという方向に向けては逆効果なのでそんな意識をもたせてしまうとやらないほうがましになります。

意見や疑問点などを「交流用掲示板」上で事前に作成しておいたワークシートへ記入させるのですが、たくさんの活動をしていればそれだけ意見も多種多様にできるのでここでも、子どもたちの体験を重視して下さい。

・自販機そのものではなく、「使用者のモラル」の面が非常に大きいことに気づかせたいものです。ただし、口だけで「モラルモラル」と言ってもなかなか動かないのが現状であり、具体的な動きとして「設置場所の工夫」や「自分たちの工夫に」に目を向けさせるようにしたいものです。

・基本的な立場としては_短絡的に「自動販売機設置 = 空き缶ポイ捨て」という考え方ではなく、「自動販売機 = 文明の利器・技術の結晶」というように考えさせたいものです。ただし、現在の自動販売機はまだ完璧なものでなく、空き缶回収システムを組み込むことなどがこれから求められていくであろうこのことをステップ5「未来の自販機を考えよう」につなげておきましょう。

ステップ2 自動販売機やポイ捨ての実態を調査しよう。

自動販売機やポイ捨ての実態を調査について、もっとくわしく調べる計画を立てる。

・交流ツール交流用掲示板などにまとめて発信することと発信する相手を意識させながら、計画を練らせることが大切です。発信の目的と相手を最初の段階で明らかにしてあげましょう（少しオーバな表現でもかまいません。意欲を高めましょう）。

名称:計画にしたがって、各自で方法を選びながら、調べ活動を行う。

・:設置している店の人や、自販機を利用している人にインタビューする。
・:自販機のデジタルコンテンツのページで調べたり、電子メールや郵便で質問したりする。
・: 班の構成は、テーマ別に決めるのを優先し人数の配分や教師の都合によって決定しない方がよいでしょう。班の構成をも固定的なものより、途中での変更等ができるように柔軟に対応することで意見や考えの交流が生まれます。ものを調べさせる最初の段階からどこにどのような内容で発信するのかといった相手意識を持たせることも重要です。山と町と自分たちの3校で自販機を調べて交流することを伝えます。

<調べるための視点> : 自販機の置かれている場所、空き缶の捨てられているところ、町内の自動販売機の数や種類；場所につれて行くだけで、視点は子どもに試行錯誤させるようにしましょう。視点を教えてしまうと次の学習に転移が期待できません。じっくり待つ時期も必要です。教師は子どもたちのために活動の時間を絞り出す役目であると認識しましょう。この時期にどれだけ活動したかが問題意識の深さとなって現れると考えてもいいでしょう。

ステップ3 名称:空き缶ポイ捨てと自動販売機の関係性を他の地域と比べてみよう。

名称:調べてわかったことや自動販売機やポイ捨てに対する自分の考えが、他の地域の人に伝わるように工夫してまとめる段階です。

・:調べた結果などの評価を教師が行わず、送った結果相手側から指摘されて自分たちの手で工夫したこと修正していけるように計画したいものです。なぜ伝わらなかったのかこちらも相手に理由を伝えることで自分たちの内容も工夫していくことができるようになります。

ステップ4 空き缶ポイ捨てを減らす方法と自分たちができることを考えよう。

このテーマを元に交流校と交流用掲示板で自分たちの地域をと比較し検討をする。

・:調べたこと、わかったこと、考えたことを、文や画像を使ってわかりやすくまとめる。
・:深い考えを持つ班や問題を浅くしかとらえていない班もあります。他の班がどのような考えも持っているのか、クラスの中での意見交流も必要でしょう。外への発信と返事は、クラスへ返すことのできる時間の保証と教室の壁などを利用した情報交換ボードの活用などと平行して考えてみて下

さい。また、ここで班の構成員をシャッフルすると情報の交換が自然におこるので作業班を組み替えるのも1つの方法でしょう。

- ・交流相手校と意見を交換しますが、道具をうまく利用して下さい。TV会議などはコミュニケーションと親密感をましますが、意見の深まりを期待するような場面では、じっくりと交流用掲示板やE-mailなどのじっくりと考えて意見をわたせる道具を利用します。逆に、対立意見などができたり、交流の滞りがちな場合は、イベント的な意味も含めてTV会議を行い、お互いの活動の進捗具合を確かめたりします。

- ・交流校の教師は、お互いにメーリングリストやE-mailなどで常に日程の連絡や学習や子どもたちに関する意見交換をしておきます。必要があれば相互に訪問をおこなってもよいと思います。

- ・子どもたちの持っている疑問や進めていきたい学習の方向性を常に意識し、コントロールを子ども側に見せないように、学習を支援する立場で進めて下さい。相手校からの働きかけをたのんでもよいでしょう。

ステップ5 未来の町での自動販売機を考えよう。

このテーマを元に交流用掲示板で自分たちの夢の自販機を提案する段階です。

- ・ すぐにも実現可能なものから近未来で実現できそうなもの、または全く空想上のものまで、自由な発想を重視して提案してもらうことが大切です。このとき学習した体験を活かしたアイデアを持っている子がいたらみんなの前で取り上げ賞賛しましょう。

- ・ 必ずしも単元の学習時間内に終える必要はありません、「年度中は、アイデアを受け付けるよ。」ぐらい

の姿勢で余裕をもって取り組みましょう。

- ・ 個人のアイデアは全体に知らせたり、HPなどを使って発信することにしましょう。

また、自販機製造会社に自分たちのアイデアを提案していくことも学習の発展として考えておきましょう。